

第15回通常総会報告 とその後の関連報告

会長 川瀬 喬

2017年4月28日(日)神戸市勤労会館の講習室において、兵庫県臓器移植推進協議会の第15回通常総会を開催されました。総会は、2017年3月末現在の正会員(57名)の内、出席者は39名(内、委任状によるもの28名、当日出席者は11名)で総会成立要件(正会員の1/2以上)を満たしており、高見事務局長より総会が有効理に成立している旨の報告がありました。

続いて、「報告事項」の2016年度の事業報告、会計決算報告、および、監査報告の提案がありましたが、いずれも全員異議なく満場一致で承認されました。

次に、審議議案の重要な2017年度の役員改選(別紙、第15回通常総会報告書参照)に続き、同年度の活動方針案が提案された時、複数の出席正会員から以下の様な動議が出されました。

その動議は、臓器移植法施行20周年に際し、兵庫県と神戸市に対して移植(ドナー)コーディネーターの増員など「要望書」を提出されたいとのことで、更に、必要に応じて県議会と神戸市議会に対し、適切な時期を選んで「陳情書」を提出されたいとのことでした。

また、出席正会員から、本年の臓器移植法20周年の当協議会としての事業が当予算に入っていないことから、早急に予算案の修正の組み替えの動議が出され、修正予算の組み替え動議が採択されました。その2017年の会計修正予算は別紙、第15回通常総会報告書に添付していますので確認して下さい。

その後、「要望書」の作成について、当協議会の役員でもある松田暉先生が、要望事項として、わが国の脳死からの臓器提供が伸び悩んでいる背景には、臓器提供施設での種々の課題が改善されないままであることに注目し、県内の提供病院とその現場で働く医療者への負担軽減のための施策として、ドナーコーディネーター体制の充実が急務であり、その具体策をまとめられました。

更に、私たちが以前から主張してきた「兵庫県内では、(公財)兵庫県健康財団、兵庫腎疾患対策協会、NPO法人兵庫県腎友会、NPO法人はあとネット兵庫、兵庫腎移植の会、提供または移植に関わる医療者、県移植コーディネーター、臓器移植施設(神戸大学医学部附属病院、兵庫医科大学附属病院、県立西宮病院)など様々な組織がそれぞれ啓発活動を実施しています。今後の更なる移植医療の普及には、各組織の連携と情報の共有化、活動内容の共有化・効率化を図ることが必要と考え、県内の移植医療関連団体などに関する連絡会議(ネットワークの構築)を設けること」を加えて頂きました。

その結果、本年6月20日(火)、松田暉先生と小生が県庁に出向き、県知事宛の「要望書」を県の医務課長に提出しました。更に、6月26日(月)、上記二人が神戸市に出向き、神戸市長宛の「要望書」を市の健康政策課長に提出しました。添付の「要望書」に目を通して下さい。